朝来市 市勢要覧 2024

あさご市ハンドブック

あなたはまちの未来
ASAGOiNG

ごあいさつ

朝来市は、兵庫県のほぼ中央に位置する、市川と円山川の源流を発する山々と、その麓に広がる田園など、豊かで美しい自然に恵まれた、人口約２万８千人のまちです。

市内には、秋の雲海に代表される壮大な景色から〝天空の城〟とも称される「国史跡 竹田城跡」、近畿地方最大級の規模を持つ円墳「茶すり山古墳」、約 1,200 年の歴史を持つ「生野銀山」を中心に広がる生野鉱山町の文化的景観など、歴史や文化に彩られた見所が多くあります。

朝来市では、全国的な問題である人口減少・少子高齢化に対応するため、移住・定住の促進、医療・福祉・子育て環境の充実、人財育成の推進、産業の振興など、「あなたに寄り添い、あなたと歩む」心豊かな温もりの市政を通じ、「人と人がつながり幸せが循環するまち」の実現を目指しています。

この要覧を通じて、朝来市に対するご理解を一層深めていただくとともに、さまざまな意見や提言をお寄せいただき、さらに開かれた市政の実現と市民参加のまちづくりの一助になれば幸いに存じます。

朝来市長

藤岡 勇

朝来市の概要

朝来市は、兵庫県のほぼ中央部に位置し、京阪神からは鉄道、高速道路等を利用しておよそ１時間半から２時間、また、姫路からはＪＲ播但線や播但連絡道路等を利用しておよそ１時間で直結する距離にあり、但馬・山陰地方と京阪神大都市圏を結ぶ交通の要衝の地にあります。

朝来市の北部は養父市と豊岡市に接し、南部は神崎郡、東部は京都府、丹波市、多可郡、西部は宍粟市に接しています。新市は南北約 32km、東西約 24km の範囲に広がり、市内には南に流れて瀬戸内海へと注ぐ「市川」と北へ流れて日本海へ流れ込む「円山川」二つの川の源流があります。

県全体の4.8％を占める市の総面積403.06㎢のうち、４分の３を森林が占め、多様で豊かな自然資源は最大の地域資源です。地球温暖化防止対策の一環としての森林資源が重要視される中、源流のまち、分水嶺のまちとして水源地の自然保全に努めています。

また、朝来市には、豊かな自然と数多くの遺産があります。茶すり山古墳を始めとする多くの古代遺産、国史跡の竹田城跡や生野銀山などの中世から近世にかけての歴史遺産、また、由緒ある神社･仏閣･各地に伝わる伝統芸能などの文化遺産、それから四季折々の自然に包まれたキャンプ場、公園、温泉などが数多くあります。

予算額（歳出）				
	一般会計	特別会計	企業会計	総額
令和１年度	207億5,000万円	76億5,920万円	31億6,346万円	315億7,266万円
令和２年度	205億8,000万円	79億9,410万円	31億9,093万円	317億6,503万円
令和３年度	187億3,000万円	78億7,240万円	28億9,291万円	294億9,531万円
令和４年度	202億5,000万円	78億9,020万円	32億　188万円	313億4,208万円
令和５年度	195億円	78億2,660万円	32億5,584万円	305億8,244万円

※令和３年度の一般会計及び企業会計予算は、骨格予算となります。

未来につなぐ交流拠点
朝来市本庁舎

朝来市の本庁舎は、平成 28 年 12 月にすべての事業が完了し、完成しました。

地上５階建ての建物には、朝来市の旧４町を象徴するデザインを随所に取り入れ、市のシンボルとして、また、イベントや展示などが行えるスペースの設置、ユニバーサルデザインを採用するなど、市民の皆さんをはじめ、どなたにも気軽に訪れていただける施設としています。

◇本庁舎の概要

来庁する皆さんにとって便利でわかりやすく、市民の交流・情報発信の場としての機能も持っています。また、災害時には防災の拠点となることから、耐震性のある構造としています。

◎所 在 地　和田山町東谷 213 番地 1
◎構　　造　鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）、免震構造
◎階　　数　地上５階建
◎建築面積　1,597.85㎡
◎延床面積　6,279.65㎡
◎敷地面積　7,279.11㎡
◎高　　さ　23.57m

免震ゴム

◇本庁舎の特徴

○災害に強い庁舎

・地震対策…災害対策本部としての機能を果たすことを目的に、庁舎地下にゴムを利用した免震装置を設置することで、地震時の振動を低減します。
・自家発電機能…停電時には自家発電によって最小消費電力で 72 時間の業務が可能です。

○環境に配慮した庁舎

・自然換気…外部風力を利用し、庁舎内で暖まった空気を吹抜けを利用して外で排出します。
・自然光の利用…外壁面、階段室から自然光を取り入れることで、照明の電気コストを低減します。
・太陽光発電…屋上に太陽光パネルを設置し、最大で 10 ｋW／ｈの電力を庁舎に供給します。

市議会のようす。市民の皆さんが、より安全で安心に暮らせるように、活発な議論が行われています。

人と人がつながり 幸せが循環するまち

～対話で拓く朝来市の未来～

○基本構想

将来像

地域力をはじめとする市民相互のつながりに加え、市民と市内外の多様なつながりが、朝来市を前進させる新たな動きを育みます。つながりから生じた新たな動きが市民の幸せを創出し、新たな動きと幸せが周囲に波及・伝播して、市民一人一人が幸せを実感することで、まち全体が幸せであふれる『幸せが循環するまち』の実現を目指し、まちづくりを進めます。

また、社会が目まぐるしく変化し、多くのことが転換期を迎えている現代においては、将来像を実現するために、まちづくりの主体である市民、市議会及び行政が、対話を通じて互いの立場や考えを理解・尊重しあい、そのうえで課題に対する最適解を導き出すことが重要です。対話によって相互理解を深め、新たな時代に向かって朝来市の未来を切り拓(ひら)いていきます。

まちづくりを進めていくうえでの大切な考え方

将来像の実現に向けてまちづくりを進めていくうえで、どの分野においても、常に意識すべき大切な視点を「まちづくりを進めていくうえでの大切な考え方」として位置付け、まちづくりに取り組んでいきます。

（1）大切な考え方１　市民一人一人が主役

第３次総合計画は、全ての市民のための計画です。これは、持続可能な開発目標（SDGs）の基本理念である「誰一人取り残さない」という考え方も包含します。

また、市民一人一人の自分らしい暮らしや生き方を認め合いながら育まれる市民の主体的な活動は、朝来市のまちづくりの力、まちの動き及び地域での支え合い等になっていきます。

朝来市は、「市民が主役」として、市民自治のまちづくりを進めてきました。この市民力や地域力は、朝来市のまちづくりの推進力であり、強みです。これからも引き続き、市民が主役の市民自治のまちづくりを推進していくことが大切です。

（2）大切な考え方２　人と人をつなぐ対話

朝来市は、対話によるまちづくりを大切にしてきました。多様な市民による対話の場は、人と人とのつながりやシビックプライドを育むだけでなく、市民の主体的な活動につながるものです。

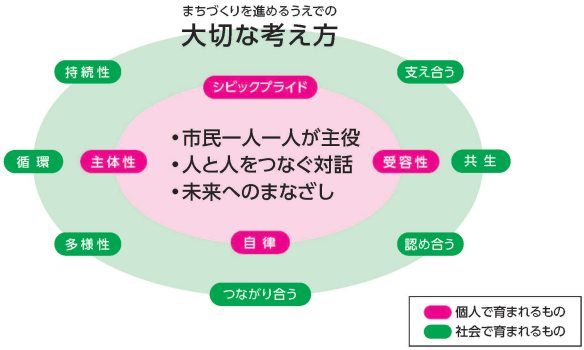
また、多様化する市民ニーズの中で、まちづくりを進めていくうえでのプロセスとして、市民と情報を共有し、対話をとおして市民の共感を得ながらまちづくりを進めてくことが大切です。

（3）大切な考え方３　未来へのまなざし

全ての分野のまちづくりにおいて、将来推計人口を踏まえながら持続可能性の視点を持ち、未来を見据えて取り組んでいくことが大切です。

また、今ある自然環境は、市民の暮らしや営みが大きく影響するものであり、当たり前に持続するものではありません。豊かな自然環境があってこそ、朝来市らしい心豊かな暮らしが生まれ、それによって経済活動が成り立っているとも言えます。だからこそ、人と自然の共生を図り、将来へ今ある自然を引き継ぐことが大切です。

この考え方は、持続可能な開発目標（SDGs）が目指す持続可能な社会の構築にも通じるものです。



これらの大切な考え方を常に持つことで、市民一人一人にシビックプライドや主体性等が育まれます。さらに、他者との関わりの中で互いの違いを学び、認め合うことで、人と人とのつながりや支え合いが生まれ、多様性、持続性、共生及び循環等を大切にする価値観が育まれることにもなります。

ありたいまちの姿

将来像を実現していくために、8年後のまちの姿として、次の6つのまちの姿を目指します。

（1）ありたいまちの姿１

「やりたい」につながる多様な学びで、
未来をつくる「人」を育む

子どもから大人まで様々な学びの場をつくることにより、市民一人一人のシビックプライドや主体性を育みます。また、多様な価値観・考え方等を互いに認め合うことで、まちをも楽しくする自分らしい生き生きとした活動（経済活動含む）をつくる人材が育まれるまちを目指します。

（2）ありたいまちの姿２

人と自然が共生しながら
地域で循環する産業を確立する

人の暮らしや営みとともにある自然との共生を図りながら、朝来市が持つ資源・魅力と市外の活力をつなげ、時代にあわせて進化し、内発的な経済力を高め、地域で循環する産業が確立されたまちを目指します。

（3）ありたいまちの姿３

多様なつながり・交流を育み、
地域力をより高める

人と人のつながり・交流を育むことで様々な活動につなげ、多様な人が参画する地域コミュニティの充実を図るとともに、移住定住の推進や関係人口の創出等の新たな力により、地域力がさらに高まっているまちを目指します。

（4）ありたいまちの姿４

誰もが居場所や役割を持ち、
健康で心豊かな暮らしを実感できる

世代等を超えて、市民一人一人が地域とつながり、誰もが地域の中で居場所や役割を持つことで、地域の人々に囲まれ安心した子育てや暮らしが実現できるとともに、市民一人一人が生きがいを感じながら健幸で心豊かな暮らしを実現できるまちを目指します。

（5）ありたいまちの姿５

市民の暮らしを支える
安全・安心な都市基盤を持続する

市民の暮らしを支える都市基盤の持続可能な維持管理・運営を図ります。また、地域防災力の強化や公共交通の確保等により、誰もが地域の中で安全・安心に暮らせるまちを目指します。

（6）ありたいまちの姿６

まちの働きや情報を戦略的につなぎ、
効率的で健全な行財政運営を実現する

市民との対話を大切にするとともに、まちの動きや情報を市民と共有することで、市民自治のまちづくりをさらに推進します。また、持続可能で自律した自治体運営を推進するため、効率的で健全な行財政運営を図るとともに、市民とともにある、市民に信頼される職員・市役所を目指します。

歴史

朝来市のある一帯は、古くから人々が住み文化の栄えた地域でした。

朝来市内には、古墳時代の遺跡が多く残され、発掘調査などから、但馬地方の中心であったことなど、そのようすがわかってきました。

茶すり山古墳（国指定史跡）

平成 14 年に発掘された茶すり山古墳（5 世紀前半）は、直径約 90 m の近畿地方最大級の円墳で、破壊をまぬがれた 2 基の埋葬施設からは、鏡や鉄器、盾など大量の副葬品が出土し一級の資料となっており、この地に古くから文化が栄えたことを物語っています。

池田古墳の概要（兵庫県指定史跡）

池田古墳は、5 世紀初めにつくられた、当時但馬を治めていた王の墓と考えられています。

墳丘の全長が 134.5 m、まわりの周濠（しゅうごう）

池田古墳から出土した水鳥形埴輪
（兵庫県立考古博物館蔵）

※池田古墳での現地説明会のようす（平成 21 年 3 月）

（堀）も含めると 160 m と推定される三段築成の前方後円墳で、但馬では最大、県内でも４番目の規模を誇ります。

以前から存在する但馬地方のほかの王墓と異なり、墳丘の構造や出土遺物などからも、畿内の大和王権に直結していたようすがうかがえる、貴重な古墳です。

朝来市埋蔵文化財センター「古代あさご館」

「古代あさご館」は、市内各地の遺跡から出土した貴重な出土品を適切に管理し、調査研究を進め、その成果を広く一般に公開することを目的としています。また、平成 22 年４月には、関連施設として「茶すり山古墳公園」「茶すり山古墳学習館」がオープンしました。

これまでに埋蔵文化財センターでは、さまざまな調査を行い、現地説明会や展示などでその成果を紹介してきました。

【主な調査･成果】
竹田城跡（竹田）
▽城跡内の発掘調査
▽史跡整備

竹田城跡

標高約 353.7 mの古城山山頂に築かれた山城。山全体が虎が伏せているように見えることから、別名「虎臥城（とらふすじょう、こがじょう）」とも呼ばれています。

天守台・本丸を中心に、三方に向けて放射状に曲輪が配置されており、縄張りの規模は東西約 100 m、南北約 400 mあります。

石積みは、戦国時代後期の様式である野面積みによる勇壮な石垣を有し、完存する石垣遺構としては全国屈指の規模を誇り、平成 18 年には「日本 100 名城」に選定されています。

とくに、秋から冬にかけては、早朝に円山川から立ち上る川霧によって、あたかも雲の上に浮かんでいるように見えることから、その幻想的な景色を見ようと多くの観光客が足を運びます。

たけだ城下町交流館

『情報館「天空の城」･旧木村酒造場ＥＮ』からなる「たけだ城下町交流館」は、約400年の歴史を持つ酒造場をリノベーションした施設です。

情報館「天空の城」では、竹田城跡についての歴史に関する展示、観光案内や各種パンフレットの配布、みやげ物の販売などを行っています。「旧木村酒造場ＥＮ」では、レストランでの食事や宿泊が可能です。

山城の郷

竹田城跡の西登山道の入口の場所にある施設。竹田城跡への観光の拠点です。

立雲峡

立雲峡は、標高757ｍの朝来山中腹にあり、山陰随一の桜の名所として「但馬吉野」とも呼ばれています。

立雲峡の最上部には「おおなる池」や「竜神の滝」があります。春には樹齢300年ともいわれる老桜が自然美の妙をきわめて咲き誇り、渓水あり、滝あり、老樹あり、巨岩奇石ありという景観の美に富んでいます。

また、円山川をはさんで竹田城跡と相対することから、展望台からは城跡の雄大な眺めを楽しむことができます。

日本の歴史を支えた鉱山「生野銀山」

大同２年（807）に開坑され、天文 11 年（1542）には山名祐豊が銀鉱脈を発見し本格的な採掘が始まりました。

その後、織田信長・豊臣秀吉の直轄時代を経て、徳川家康が銀山奉行（のちに生野代官）を設置し、時の為政者の財政を支える重要な存在として護持されてきました。

明治元年に政府直轄鉱山となり、「お雇い外国人」であるフランス人技師コワニェなどが招かれ、目覚しい近代化を成し遂げ、日本の鉱山の近代化のモデルとなりました。

その後民間に払い下げられ昭和 48 年には閉山し、約 1200 余年の長い歴史に幕を閉じました。今では坑道の一部が観光坑道として開放され、多くの観光客が訪れています。

日本遺産「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」

生野銀山では、明治初めの近代的な技術の導入の次に必要とされたのが、物資・鉱産物の輸送ルートの確保でした。そこで、生野銀山から姫路･飾磨港まで敷かれたのが「生野鉱山寮馬車道（銀の馬車道）」です。西洋の技術を用いて造られた広く延びる道路は「日本初の高速産業道路」とも言われています。

一方、神子畑は江戸時代に生野代官所の支配を受けた鉱山で、大正時代まで生産を続けていました。大正８年（1919）には明延で採られた鉱石を選別する「選鉱場」が設置され、昼夜を分かたぬ操業で「不夜城」と呼ばれました。採掘（明延）→選鉱（神子畑）→製錬（生野）と作業を分業にしたことで使用されたこのルートを「鉱石の道」と呼んでいます。また、神子畑には、日本最古の全鋳鉄製の橋と言われる「神子畑鋳鉄橋」、生野鉱山から移築された明治時代の洋館「ムーセ旧居」などもあります。

これら二つの道は、平成 29 年（2017）４月に、姫路市、福崎町、市川町、神河町、養父市とともに、日本遺産「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」の認定を受けました。明治政府の威信をかけて生み出された姫路から日本屈指の鉱山群を目指す 73㎞の道のりは、日本の近代化を支えるとともに、そこに住む人々の生活や文化も発展させました。

生野のまちなみ

鉱山で繁栄したまち並みが今も残され、「生野鉱山及び鉱山町の文化的景観」として国の重要文化的景観に選定されています。

旧生野鉱山職員宿舎・志村喬記念館

もとは鉱山職員の官舎（社宅）で、生野鉱山の歴史文化を紹介する施設「旧生野鉱山職員宿舎」として生まれ変わりました。

明治時代、大正時代、昭和初期を想定して復元され、そのうち１棟は、生野出身の俳優、志村喬さんの記念館となっており、さまざまな資料を展示しています。

口銀谷銀山町ミュージアムセンター

生野を代表する２軒の旧家、旧浅田邸と旧吉川邸を「口銀谷銀山町ミュージアムセンター」として整備しています。

生野まちづくり工房　井筒屋

代官所から採掘権を与えられた吉川家が代々営んできた郷宿で、江戸からの巡見使など要人が泊まった記録も残っています。まちづくりや特産品づくりなどの住民の活動の場として地域住民だけでなく、広く一般にも開放。また、施設内の蔵では吉川家から寄贈された史料や出世すごろくなどのおもちゃなど貴重な品々が展示されています。

生野義挙碑

文久３年（1863）、勤皇の志士と但馬の農民が共闘して生野代官所を占拠するも、わずか３日で破陣した事件「生野の変（生野義挙）」を後世に伝えるために立てられた碑。生野義挙は、明治維新の魁ともいわれています。

あさご歳時記

朝来市内では、伝統的な祭事をはじめ、年間を通じてさまざまな催しが繰り広げられています。

朝来市「わだやま竹田」お城まつり

生野銀山へいくろう祭り

たたらぎダム湖マラソン大会

主な年中行事

１月１日	元旦マラソン・ウォーキング（旧山東生涯学習センター～粟鹿川沿い折り返し）
１月第２日曜日	和田山二宮神社戎祭
３月上旬	銀谷のひな祭り（生野町口銀谷・奥銀谷）
４月上旬	立雲峡桜まつり（立雲峡）
	朝来市「わだやま竹田」お城まつり（竹田周辺）
４月中旬	生野銀山へいくろう祭り・神子畑桜まつり
４月第４日曜日	青倉神社 春の大祭（川上・青倉神社）
4月下旬～5月中旬	大町公園藤まつり（白井大町藤公園）
５月５日	ヒメハナ公園こどもまつり（ヒメハナ公園）
６月第１日曜日	たたらぎダム湖マラソン大会（多々良木ダム周辺）
７月第３日曜日	寺内ざんざか踊り（寺内・山王神社）
７月第３日曜日	松明祭（愛宕神社、竹田・朝来橋）
８月１６日	あさご夏祭り（朝来グラウンド）
８月中旬	山東夏まつり
8月２２・２３日	和田山地蔵祭り
９月下旬	銀谷祭り（生野口銀谷周辺）
１０月上旬	生野秋祭り（生野）・竹田秋祭り（竹田）
１０月下旬	但馬まるごと感動市
１０月１７日	粟鹿神社例大祭 瓶子渡「サアゴザレ」（粟鹿神社）
１０月第３日曜日	宮神楽（石部神社）
１２月上旬～１月上旬	生野イルミネーションロード（生野マインホール周辺）

寺内ざんざか踊り

愛宕神社 松明祭

生野秋祭り

竹田秋祭り

粟鹿神社 瓶子渡「サアゴザレ」

宮神楽

芸術・文化

豊かな環境にめぐまれた朝来市では、人々の心も豊かにする、芸術・文化の取り組みを積極的に展開しています。

あさご芸術の森美術館

雄大なダムの直下に位置し、広大な野外彫刻庭園と屋内の美術館によって構成される芸術空間です。展示室とアトリエ室、情報コーナーがあり、市内出身の文化勲章受章者 故・淀井敏夫の生涯作品を屋内外に常設展示するほか、朝展・全国こども絵画選抜展・朝来の小さなフォトグラファー展などの公募展や各種企画展、アートフェスティバルやワークショップによる教育普及活動などを展開しています。

文化ホール

朝来市には、「生野マインホール」「和田山ジュピターホール」「あさご・ささゆりホール」の３館があります。

そのうち、「和田山ジュピターホール」は、800 人収容の大ホールをはじめ、小ホール、楽屋･会議室･和室（茶室）などを備えており、他の２館とともに、コンサートや講演会、研修会など、さまざまな催しのニーズに応えています。

生野マインホール

和田山ジュピターホール

あさご・ささゆりホール

朝来市少年少女オーケストラ

朝来市少年少女オーケストラは、平成２年に音楽文化の振興と心豊かな青少年の人材育成をめざして結成し、幅広い年齢層の団員が毎週２回、アットホームな雰囲気の中練習に励んでいます。

また、毎年開催する定期演奏会など、演奏活動を通じて多くの皆さんに身近に音楽に触れる機会を提供し、美しいオーケストラの響きをお届けしています。

和田山図書館

約16万冊の蔵書を保有しており、市民の学びの拠点として読書や調べものができる環境を整備しています。また、誰もが立ち寄りやすい施設であるよう、イベントやテーマ展示を定期的に行い、利用促進に努めています。

和田山図書館

あさご森の図書館

約7万冊の蔵書を保有しており、木材を生かした図書館です。また、地球温暖化防止の対策技術を用いたエコハウスでもあります。一部の本棚を動かすことが可能で、その空間を活用して音楽会などを行うことができます。

あさご森の図書館

あさごふれあいプール「くじら」

全国でも珍しい木造の温水プールです。地域産材を中心にした木材をふんだんに使い、木の持つ温かみや落ち着きがあります。プールのほか、寝湯、屋内ジャグジー、スタジオ、トレーニングジムを備えています。また、深夜電力による夜間蓄熱に、補助熱源として地中式ヒートポンプシステムで省エネルギー化を図り、二酸化炭素の排出量を削減し、地球温暖化防止に向けた配慮をしています。

あさごふれあいプール「くじら」

産業

朝来市では、さまざまな産業を通じて、活力ある地域づくりを行っています。

岩津ねぎ

「岩津ねぎ」の歴史は古く、江戸時代に生野銀山の役人が京都に出向いた際に「九条ねぎ」の種を持ち帰ったことが始まりといわれ、銀山労働者の貴重な冬の野菜供給源となっていました。

現在、商標権を取得している「岩津ねぎ」を朝来市のブランド商品として確立していくため、ラベルの統一や徹底した品質管理のもと、出荷シーズンを毎年 11 月 23 日から翌年 3 月 21 日までと定め、品質向上には欠かせない土づくりから、一番大切な食の安全・安心を確保し、消費者に良い品、安全な品を提供していくために、積極的な振興策を展開し、生産と販路の拡大を図っています。

雪の中、寒さが増すごとに味がよくなるのが「岩津ねぎ」